

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

品名:「だから田所里さんはこおろぎなんかじゃないってば!」

テーマ:「人間なのに、昆虫メンタルな美少女」

キャラクター

50

ストーリー

45

テーマ(設定)

45

文章力

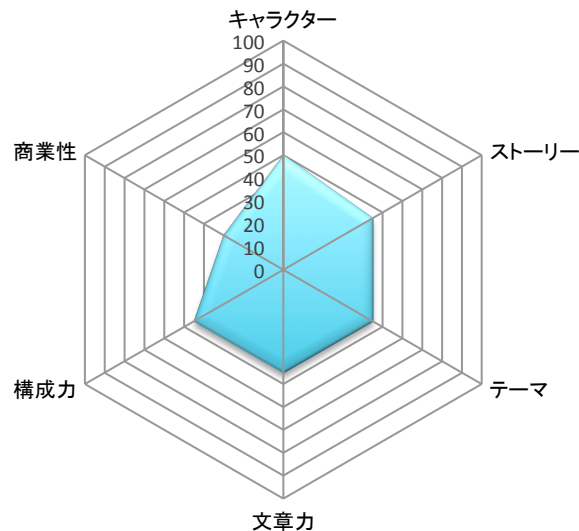
45

構成力

45

商業性

30



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語が都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものが無い

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・この作品は「作者と読者が既に知り合いで且つ仲が良い」ことが前提になければ楽しめない作品となっている。読者が作者の知り合いであれば、「あの作者またこんなシュールなお話を書いている!」というメタな側面から楽しめるようなストーリーの仕立てになっているが、初めて読む人にとっては「個人的」という言葉だけでは済まない、若干意味不明なストーリーになってしまっている。まず何故ヒロイン自身が「わたしはこおろぎ、きりぎり」と自称する意味が分かりにくい。例えば「わたしは宇宙人、ビービー」と言っていたのなら「ああこのヒロインは少し頭がいかちやてる電波キャラなんだ」と分かるが、こおろぎという微妙なポジションである「なんでこおろぎ?」状態になってしまう。また、主人公が「田所里=こおろぎ」という設定を何の疑問もなく受け入れてしまっている点も読んでいる疑問に感じざるを得ない。作中で一言「なんでこおろぎなの? 田所里さん声綺麗だし、鈴虫とかじゃだめなの?」といったやり取りがあれば理解し易くなったと思われる。もしくは序盤で主人公自身が、なぜヒロインが自分のことをこおろぎと自称するか説明してしまうか。またラノベにおいて、「ギャグ要素」と「人間の死」は非常に相性が悪い。もし工藤の死を引き立たせたいのであれば、ギャグ要素を減らし切らない青春物語にすれば面白くなると思われる。もしヒロインの支滅裂ぶりを表現したいのであれば、人を作中で殺さず、最後まで明るいギャグ雰囲気でお話の締めくくることが面白くなる。人が死ぬギャグ展開はかなりの確率で冷めた笑いか誘わないため、この点には要考慮。結論を述べると、この作品は一般的な本として出版するにはあまり向かない作品である。ただ既に多くの読者とリアルに仲が良い場合、同人活動等の一貫として作品を本にすればかなり売れる可能性がある。(企画の性質上、恐らくこの作品の順位は相当高い。それを計算した上でこの作品を投稿していたらただただ尊敬の一言)

合計加点ポイント 0

総得点: 260 / 600

B方式総合得点: 11267 点